



男声合唱組曲  
「雪明りの路」

- I 春を待つ
- II 梅ちゃん
- III 月夜を歩く
- IV 白い障子
- V 夜まわり
- VI 雪夜

作詩  
伊藤 整  
作曲  
多田 武彦  
指揮  
北村 協一

組曲「雪明りの路」について

私は日本民謡が好きでした。われわれの先祖が日本のいたるところで苦しい労働や生活の中から生み出した日本民謡には、すばらしい心があります。なかでも私は「江差追分」が好きでした。「忍路高島およびもないが……」の忍路という字やひびきに惹かれて地図を見ると、その延長線上に小樽がありました。

関西学院グリークラブからはじめて委嘱されて作曲した組曲「中勘助の詩から」が名演奏された翌年、再び委嘱をうけたので、私はこの小樽の詩の心の美しさは何とか音楽によって表現してみようと作曲にとりかかりました。

この組曲も関西学院グリークラブの名演奏で見事に初演を飾っていただきました。

爾来、20年近くのあいだ、数多くの合唱団に愛唱され、多くの学生諸君が「いたどりの多い忍路から出る月夜の坂道」を歩いていただいたそうです。

今年も遠い小樽のまちが「新しい雪明り」を迎えているころ、関西でこの組曲が歌われることは、私にとって何ともいえぬ嬉しい思いです。

第47回リサイタルおめでとうございます。

演奏会のご成功と、ますますのご発展をおいのりいたします。

多田武彦

作曲家